



第 1363 回例会報告

平成26年5月8日(木)晴

会長挨拶

会長 平山隆勇

認知症の人にどう接するか

連休の谷間に、初対面の老婦人が娘さんに伴われて受診されました。物忘れが主な症状でしたが、2 年位前から『同じことを何回も話したり、尋ねたりする』という症状があったようですが、今はかなり進んだ状態でした。「母が受診することを頑なに拒むので、連れてくるのが今頃になってしまいました」と娘さんがすまなそうに言いました。今日は「健康診断に行きましょう」と言って連れてきたそうです。的確に、冷静にお母さんの病状を話す娘さんは、同時に大変母親思いであることが言葉の端々に表れていました。落ち着いた態度から医療関係者かなとも思いましたが、そうではなく東日本大震災で被災し、その後いろいろな事情があって、2 年前実家に戻ってきたという辛い経験の持ち主だったのです。お母さんは物忘れが進み、最近では身の回りのことすら自分でできなくなってきていました。しかし、試しにデイサービスを利用させたところ、そこの職員の方が帰り際に「いろいろ手伝ってもらってとても助かりました。またこの次もお願いしますね」と言ってくれたことにより自信を取り戻し、身の回りのことも積極的にするようにな

ったのだそうです。それまでお母さんはご主人に物忘れをばかりで、すっかり自信を失っていたのです。

認知症の中で最も多くみられるアルツハイマー病は、異常なたんぱくが脳の神経細胞内で作られて蓄積し、それが神経細胞を壊してしまうという原因不明の病気です。早期に見つけると薬物等で進行を遅らせることができる場合もありますが、進行してしまったケースでは、周り人の接し方がより重要になります。今回の方のような認知症の人に対しては、得意なことやまだ出来ることをみつけて、それを生かしてあげ、うまく出来た時は褒めてあげることがとても効果的です。それによりやる気を出し、笑顔を取り戻す場合もあります。何かの作業中に戸惑った時は、次の手順を示すヒントをさりげなく与えてあげることも大切です。また、「財布を盗まれた」と言い出したら、「私じゃありません、どこかにしまい忘れたんでしょう」と言わず、「それは困りましたね、一緒に探しましょう」というような対応が必要です。即ち『褒める』『認める』が重要です。反対に『叱る』『否定する』は悪い結果をもたらします。今回の患者さんは、周囲の人の接し方のお陰でよい方向に行っているのです。薬剤は使わず、経過をみることにしました。娘さんもそう考えていたようで、安心して帰って行きました。

もし、皆さんの周りにも万一認知症の方がで

■出席報告

会員数	37名
出席対象	36名
出席者数	26名
出席率	72.2%
前回修正	88.9%

■ニコニコBOX

23名	29,000円
累計	1,034,000円
目標額	130万円
達成率	79.5%

■今週のこぼ

堀川先生、本日はお忙しい中お越しいただきましてありがとうございます。短い時間ではありますが、楽しい思い出がつくれればと思います。

小口直久

おかげ様で今月 10 日に結婚して半世紀を迎えることができます

溝口 幸二



2013-2014 年度 国際ロータリーテーマ
ロータリーを實踐し みんなに豊かな人生を

Engage Rotary, Change Lives

ウィークリーの原稿送付先は PR@suwakorc.net です

しまったら、今日のお話しを思い出して下さい。



今月の結婚祝い



第 1363 回例会

手話でダンスを楽しもう

青少年奉仕委員会

本日の例会は辰野町の手話ダンスグループ・リュシュールから堀川先生にきていただき、みんなで手話ダンスを楽しみました。

手足と頭を動かして唱歌「ふるさと」に合わせて手話を習いました。難しいと思っていた手話も「意外とこれなら覚えられるかも」と思ったのは一瞬で、1日たった「ふるさと」以外はほとんど思い出せないのは自分だけではないようです。



最後に見せていただきました「涙そうそう」本当に、感動しました。

習いました「ふるさと」の手話ダンスは、諏訪湖ロータリークラブのホームページにアップしてあります。